

第2回 河内長野総合計画審議会（全体会） 議事要旨

日時:令和7年3月17日(月)

午後4時00分から

場所:8階 802 会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) 基本構想の修正案について（協議）

→事務局より資料1、2、参考資料に基づき基本構想の修正案について説明

<質疑>

望月委員:部会でも話に出たが、地産地消で日本一のカレーをという話について、市民ワークショップでグランプリをとったからそのまま、というのはどうなのか。

市事務局:グランプリをとったからというわけではない。カレーについては賛否両論あった。おいしいカレーを目指すのではなく、給食カレーの下地となる農業、食育、健康を推奨することが大事である。今回市民・市外の方に見てもらうためにもインパクトをもって、これで盛り上がればと思っている。審議会の意見も踏まえてこの案で行きたい。

望月委員:地産地消であればカレー以外にもある。毎週カレーが出るとかであればよいが、月1回しか出ない。コンセプトにあるように枠から飛び出た方がよいのではないのか。カレーだけではなく「日本一の給食」とするなど、幅の広いキャッチにしたいところ。

嘉名会長:いろいろな経緯があったと思う。全国給食ランキングみたいなのはあるのか? 何をもって日本一とするのか。

河村委員:日本一の給食は2004年にスタートして、今年20回目。日本一の給食甲子園がある。だが、そこに参加している学校はそこまで多くない。そういうところを目指すというのはどうだろう、という話もしたが、どちらかというとそっちを目指す方がピンポイントで市民がワクワクするものになると思う

嘉名会長:日本一、というのはグランプリをとる、という意味ではないと理解している。できるだけ、地産地消で美味しい給食を届けたい、という思いは同じ。そこが伝わるキャッチにしていればよい。

駄場中委員:サクセスフルなサステナブルもカレーもそうだが、インパクトを与えたいと、事務局が言っているのが気になっている。インパクトが先行するのはどうなのか。インパクトは必要だが、インパクトと合わせ正確性・市民に伝わるのか、という視点を検討してほしい。キャプション内容は問題ないが、コピーが気になる。

河村委員：サクセスフルなサステナブルのコメントで、今パブコメを取る中で、桜が咲き始める。桜はどんどん伐採されているがその後植樹されるか気になっているタイミングだと思う。桜についてどうするのかというコメントがあった方がいいのではないか。まちの中の緑の部分、道路や公園の部分で「桜」について付け加えることはできないのか。

若林委員：地域がまるごと学校ということで、「知徳体」を備えるのも大事だが、生きる力を備えることも大事だということを強調したい。今後の時代を生き抜く上で、今後増して大事になる。

嘉名会長：例えば生きる力が後に来ているのを、「生きる力を備えて」知徳体という順番にした方がいいのではないか。という意見か。

若林委員：そう。

浦山委員：事務局でも説明いただいたが、よいキャッチだと思う。市民にとってこういうまちがよいというイメージを膨らませるのが大事だと思う。農業の担い手も含めた方向性を示している。給食についてもこどもたちを象徴している。循環する恵みのようなイメージができた。

峰委員：導入メッセージがわかりやすいが、締めメッセージもそこにつなげたらいいと思う。「一人ひとりの好きが…」という分だが、千年都市とみんなの未来、と関連したメッセージを結びのメッセージで使うのはどうか。例えば「未来」という言葉を使うなど。導入と結びが呼応するようなものになればよい。

玉崎委員：導入のコピーで、「この冊子は…作られました」と書かれているが、他人が作ったようなイメージなので能動的な表現に変えた方がよい。

福島委員：市のブランドメッセージ「変わらず」「ふだん」というのが、ワクワクドキドキとは反対のような気がする。今までとは違うことがドキドキする。自分が思いもかけなかったことが起こるのがドキドキワクワクすると思う。もっとピリッとしたコピーがいい。

市事務局：ブランドメッセージとしては決まっている。普段を高めていく。高まった普段を長く維持していく。普段の幸せを維持していこうとすると時代に応じた変化が必要。長く維持することに向けたチャレンジとして職員は捉えている。

嘉名会長：幸せという言葉はウェルビーイングだと思うが、変化することの幸せ、という意味合いなのかと思う。コピーの意味がしっかり伝わるようにすればよいと思う。

藤林委員：千年都市というのは、「まち」か「都市」で、都市になったんだと思う。千年都市というのが冒頭に出るのであれば、千年都市の意味を説明してほしい。河内長野での暮らしが千年続いている、という文言を最初に入れてほしい。知らない人も千年都市という定義が入ってきやすいと思う。千年都市につながる補助線を入れたらよい

林委員：暮らしまち、として記載しているが、仕事のまちという表現は入れなくてよいのか。河内長野は「千年都市」「河内長野」「まち」の3通りの表記があるが、考えて使い分けているのか。また、男女共同参画の代表として感じたこととしては、みんなが主役・みんながファンの人権尊重というところに記載されているのだと思う。「応援し合って」という言葉を「尊重し合って」という言葉に変えるのはどうか。やさしい表現にしたいという気持ちはわかるが。

市事務局：「まちが元気、みんなが元気」「みんなが主役・みんながファン」や、「新しい一歩、踏み出し放題」で仕事・雇用も含めた具体的な施策を検討する。使い分けについては、コピーライターとも相談して、コピーとしてのキャッチーさ、語感、リズムを踏まえて協議した結果この表記となっている。また、人権尊重については、ご意見として賜って検討したい。

嘉名会長：いろいろな項目に仕事も含まれているということで言われたと思うが、「暮らし」に働くことが含まれるということがうまく伝わっていないと感じた。働くことも含めて「暮らし」である。

峯委員：第2部会に入っていたが、全体として自然が売りなのは認識しているものの、「自然を守る活動が盛んに」とあるが、必要な開発が後ろ向きにとらえられる可能性がある。今後の活力のあるまちづくりに向け、必要な開発はしていくという心意気を記載しないと、これ以上の発展がないと受け止められてしまう。

市事務局：14ページの「まちの顔を笑顔でいっぱいに。」において、中心市街地、駅前以外にもまちの顔になる場所がいくつもあり、まちのいたところが笑顔であふれる、という思いをこちらのコピーで表現していきたい。

河村委員：峯委員の「河内長野の開発」について、寺ヶ池を改修していくに際して、市民にアイデア募集をしているが、河内長野が新たな開発を行っているというのを入れるとよいのではないかと思う。サクセスフルなサステナブルの中にそういった表現があればよい。市民参加型的な、市民からアイディアを募集しているということも市民とまちづくりをしているということのも入れられるとよいのではないかと思った。

市事務局：まちの顔を笑顔でいっぱいに、推しと出会えて育てるうれしさ、の部分で入っていると認識している。

堀川委員：前回総計では分厚く、今回薄くして読んでもらえるように。ということだった。キャッチの下に具体的な計画は入るのであって、今回の基本構想ではこれ以上細かいことを入れない方がよいと思う。むしろ絞ってもよいと思っている。

嘉名会長：千年都市とみんなの未来の第1段落、書いてあることは間違いではないが、これまでのまちづくりについても触れられたらよいのではないか。財政が厳しい中で学校を作ったりしてきた。これからの時代に合ったまちづくりをしていくが、今までも頑張って、時代に合ったまちづくりをしてきたということも記載してほ

しいと思う。

江川委員：2 ページ、16 ページの呼応については大賛成。是非その方向で考えてほしい。

峰委員：他の細かなところで「10 年」という表現を使っていると思う。「未来」にすべて変えた方が見やすいと思う。

嘉名会長：基本構想では確かに 10 年にこだわる必要はなく、わかりやすさもあると思う。一方で未来と書くと、10 年何もやらなくても…というところもあるので、使い分けていただければと思う。いただいた意見は至極もつとも、とも思うが意見が割れているところもある。最終は決断するところもあると思うが、検討いただければと思う。

（２）河内長野市第 6 時総合計画基本構想（案）のパブリックコメントについて（協議）

→事務局より資料 3 に基づきパブリックコメントの方法について説明。

（３）答申に向けて（協議）

<質疑>

嘉名会長：今日いただいた意見をふまえ最終案を策定し、パブコメにかけ、修正する。本来であればパブコメ実施後、再度審議会を開くのが筋であるが、大きく内容も変わらないこともあり、今日の意見を踏まえて修正し、更にパブコメ実施後の調整案については会長に一任いただけないか。

（異議なし）

嘉名会長：最終案については審議会会長に一任いただいたということでよろしく願いたい。

3. 事務連絡

4. 閉会